

山口講習堂

文武の総合学舎へ

山口講堂では鳳陽の他に、武芸の師家が数名おり、また門弟の中でも特に優れた者を選んで助講に任じていた。組織が整備されるとともに、剣術・槍術・馬術・射術など武芸の稽古場としても、また整備されつつあった。

これは、人材育成のために文武を奨励した藩の天保改革にも沿っており、設立当初から公的教育機関の性格を帯びていた山口講堂は藩校明倫館拡張の機運に伴い、次第に明倫館の支校的存在となっていく。



山口講習堂玄関

山口県鴻城高等学校に現存
鴻城義塾創設にあたり山口中学校より譲り受けた

弘化2(1845)年、鳳陽は藩に請うて「山口講堂」を「山口講習堂」と改称し、山口附近における文武諸芸稽古場の総名とした。山口講堂設立から30年を経て、山口講習堂は名実ともに山口における文武の総合学舎へと発展を遂げたのである。

山口や近郊に在住の諸士の子弟は、山口講習堂で学び、中でも成績の優秀な者は明倫館へ進学した。このため、山口講習堂は藩における人材育成の要衝を担うこととなった。



こんな人も！

後の明治維新で活躍する井上馨も、山口講習堂から明倫館へ、という進学の道をたどった一人。

井上馨



巳ノ正月
上田茂右衛門
御間届相成候様ニ奉願候
以上
申出之通被仰付候事
山口文學所之儀是迄講堂と
相唱來候處、以來講習堂之
稱號ニ仕、彼地文武諸稽古場之
惣名も相兼度奉存候間、此段
覺

「御賞美先格書拔」

山口講習堂への改称の申し出が記されている

その頃、藩校明倫館では…

享保4(1719)年の創設から、文武の奨励に努めてきたが、14代藩主の敬親の時代を迎え、さらなる発展をみた。敬親は人材育成、文教政策に重きをおき、修学の場の狭隘化や散在を改善するため、移転新築による規模拡大、学政の統一を図った。弘化3(1847)年12月、明倫館再興の令を出し、城下の江向に明倫館を造営した。

敬親は、藩の財政緊縮の際にも、明倫館の経費は節約せず、西洋学所を設けるなど、さらなる拡張を進めた。

山県半蔵による改革

嘉永6(1853)年、鳳陽は85歳で逝去する。以降、山口講習堂は高橋真作、松原一右衛門が引き継いだ。萩藩による明倫館の改革に伴って、山口講習堂にも幾多の改正が加えられた。

安政5(1858)年、藩は、文武督励のため稽古係を派遣し、翌年には山口講習堂の稽古方諸経費は明倫館が負担することとした。さらに同年9月、明倫館助教の山県半蔵(宍戸^{たまき}璣)を、学事を監督する督学として派遣。山県の着任によって、山口講習堂の改革は大きく進み、また明倫館の影響もますます強まっていった。

山県は山口講習堂の講師らと協議の上、明倫館の教育内容に近付けるため、順次、課目の改正を行った。講義も明倫館に準じて毎朝早朝から午前8時過ぎまで行うことにした。また、教科書の不足を補充し書台などの什器も新調、畳の張り替えや壁・屋根の修繕を行うとともに塾舎も設け、施設面でも整備を進めた。

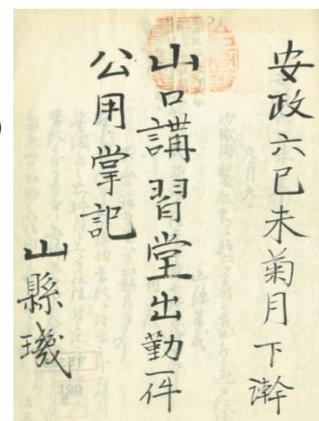
着任からわずか3か月で、山県は侍講(君主に学問を講じる者)に抜擢されたため、帰萩することとなったが、周囲の強い請願により、引き続き督学を併任した。

万延元(1860)年3月、山県は世子・定廣の東行への同行を命じられたため、後は三田尻越氏塾に出役中の小田村伊之助が兼務することとなった。

山口講習堂出勤一件公用掌記
山県の講習堂の出勤記録



山県半蔵



同年、藩は銃陣編成の大改革を行い、新たに洋式銃陣を採用した。明倫館でその操練が開始されたことに伴い、地方に在住の諸士もその技術を習熟するため教練を行うこととなった。山口では、講習堂の西方、亀山の東麓に教練場を設け、明倫館の規則に準拠して操練を行った。

明倫館の直轄に

万延元(1860)年11月、藩は山口講習堂及び三田尻越氏塾を明倫館の直轄とすることを決め、28日にこれを発令した。従来は学制が明倫館に準拠しているのみであったが、これ以降、文学関係の諸役は全て明倫館から派遣され、両地の教授は明倫館の助教、都講は同舎長のうちからそれぞれ兼務することになった。

地方の一学問所からスタートした山口講習堂は、藩の教育システムの中に組み込まれ、さらなる発展を遂げていくこととなる。

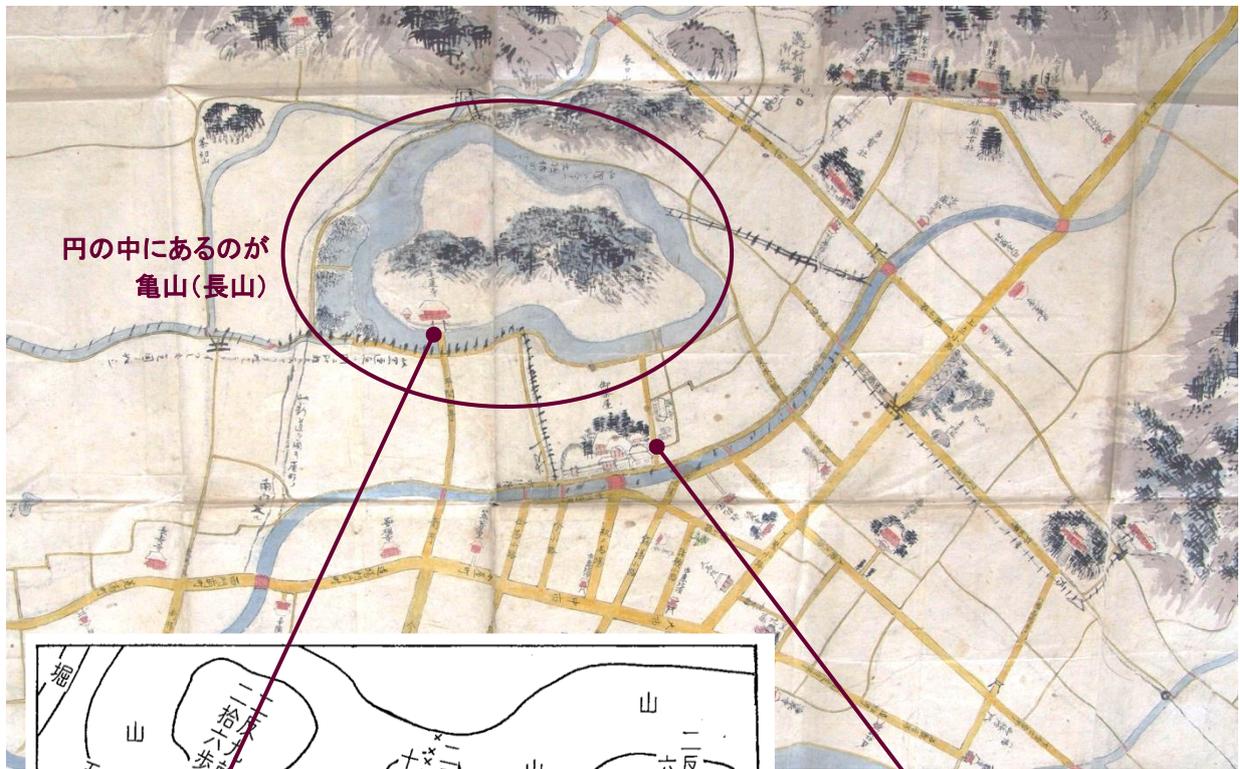
講習堂の移転

明倫館の直轄になって後、山口講習堂の規則はますます整い、就学人員も増加したが、その一方、校舎は狭隘・老朽化が目立ち、さらに町家に隣接していたため拡張の余地もなかった。このため、山口代官から藩へ移転についての稟議が出された。

万延2(1861)年、藩はこれを受け入れ、新たに亀山東麓の空地に移転改築することが決まった。この地は以降、学校の変遷を経つつ、山口大学経済学部まで使用された。(現在は吉田に移転)

移転改築工事は山口代官に委任されたが、特に藩から銀20貫目が工事経費として支出されたため、在住諸士は感激し、進んで土木工事に従事した。このため、同年9月、僅か4ヶ月足らずで新校舎が落成し、11日からは授業を開始した。

山口町村図(山口県文書館所蔵)



円の中にあるのが
亀山(長山)

山口御茶屋

講堂はここ

新校舎は亀山東麓の高台に東面して講堂があり、講堂を中心として諸生寮、書庫、剣槍弓術の塾、会所、大砲置場が並んだ。

亀山移転後の山口講習堂